

7日茶中39号  
令和7年7月1日

関係団体 各位

公益社団法人日本茶業中央会会長	上川陽子
全国茶生産団体連合会会長	吉田利一
全国茶商工業協同組合連合会理事長	佐々木余志彦
日本茶輸出組合理事長	桐島俊昭

### 令和7年産新茶の生産と価格の状況について

梅雨の候、ご清栄のこととお喜び申し上げます。

本年の新茶について、現在2番茶の生産が進む中、平年に比べて天候等の影響により大きく状況の変化が生じていることから、緊急に会員からの生産と価格の情報等を取りまとめ整理しましたので、以下のとおりお知らせ致します。

- 1 茶の栽培面積（令和6年度3万5千ヘクタール）が、ここ10年にわたって毎年約1千ヘクタール減少してきている中で、令和7年新茶の生産動向は、春先の天候の影響もあって、農林水産省や関係団体によると、収量、収穫量は全国的に前年の80%~90%、荒茶（半製品）価格は主産地の鹿児島県で4割、静岡県で2~3割高と推定されています（別添 関連データ）。
- 2 消費動向は、近年、消費の大宗を占めてきたリーフ茶が長期にわたって減少してきている一方、簡便化志向等による緑茶飲料や茶原料入り加工食品等に徐々に移行しています。特に、抹茶を含む粉末茶の需要が国内外ともに抹茶ラテやスイーツ等が急速に拡大しているところ です。
- 3 このため、本年産新茶の生産は、リーフ茶の荒茶価格が近年低迷していたことから、需給の拡大している粉末茶原料、抹茶原料の生産に急速に移行し、リーフ茶は供給が縮小し、食品加工用原料茶は需給のギャップに供給がまだ追いついていません。
- 4 以上、生産から加工、流通、販売に係る各事業者は、茶生産の縮小、消費の急激な変化に対応しつつ、省力生産技術や省エネの導入など、生産性の向上、コスト低減に努力を重ねておりますが、昨今の資材費、人件費、物流経費などコスト上昇を吸収し続けることは困難となっており、引き続き持続可能な健全な経営を目指すため、適正な価格形成、価格転嫁に向けての取組の強化や理解の醸成が緊急的に必要な状況となっています。

## 別添

令和7年一番茶（荒茶）の主産地の数量、価格の動向（推計）について  
（6月現在）

- （1）静岡県リーフ茶生産（JA静岡経済連の推計）  
前年1万tの85%程度  
前年1,763円/kgの120～130%
- （2）鹿児島県茶市場のリーフ茶取扱（JA鹿児島経済連）  
2,518t（前年比 90%）  
2,564円/kg（前年比 140%）
- （3）京都府産初茶（普通）てん茶の取引（京都府茶業会議所、JA全農京都府本部）  
459,972kg（前年比 87%）  
14,333円/kg（前年比 265%）